

# 地域福祉のテーマ別意見・施策・課題シート

テーマ1 地域のつながりの再構築 ① (見守り、声かけ)		
策定委員会・地区懇談会等での意見	区・社協等の主な施策・事業	今後の課題
<p>① 顔の見える関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣と接点がない世帯に対して、1人でも話しが出来る人をつくり、顔つなぎを始める取り組みが大切(地)</li> <li>困ったときに隣近所に相談でき、解決できることが理想(地)</li> <li>遠くの親戚より近くの知り合いとのつながりや声かけが大切(策)</li> <li>近所付き合いが薄く、情報が取りにくい。町会の大きなくくりでなく、5~6世帯での小さな集まりを推進してはどうか(区)</li> </ul> <p>② 重層的な見守り方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町会、民生委員の見守りなど、専門職ではない方々のゆるやかな気づきの見守りネットワークがあると良い(策・地)</li> <li>商店、薬局などの日常的な見守りも大切(策・地)</li> <li>人による見守りのほか、防犯カメラなど機械による見守りも地域の犯罪抑止になる(策)</li> <li>地域で気になる人がいたときに相談人へ伝えてもらうだけで助かる。(地)</li> <li>参加が義務化、監視にならないように工夫された集いの場があれば、ゆるやかな見守りとして自分が行けるときに参加したい(地)</li> <li>登校中の生徒とあいさつをし合うこと(見守り)により、日頃生活支援などのサービスを「受け手」になることが多い高齢者も「支え手」側になり、地域の力となっている(地・庁)</li> <li>マンション住民に接触しづらい、地域の催しに参加する人が少ない(地)</li> <li>認知症サポーター養成講座などを活用し、マンション管理組合などに対し、認知症の理解を促進するとともに、マンション全体で見守りを行うことの重要性を伝えている(庁)</li> </ul> <p>③ 個人情報の保護・プライバシーの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時や災害時にどこまで踏み込んで良いか(鍵を壊したり窓を割ってでも安否を確認するか)わからないため、見守り方法のアンケートなどにより、町会内での対応を検討・認識し合うことが大切(地)</li> <li>地域による見守りを必要とする方がいる場合、個人情報の保護に配慮しつつも、その人自身の人権や危険を保護することも大切(地)</li> </ul>	<p>■ 区の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員・児童委員、主任児童委員による見守り活動</li> <li>高齢者等地域見守り活動(孤立死防止ネットワーク)</li> <li>品川区要配慮者支援体制</li> <li>しながわ見守りほっとライン</li> <li>品川区虐待防止ネットワーク推進協議会</li> <li>認知症サポーター制度</li> <li>緊急通報システム</li> <li>83(ハチサン)運動の充実</li> <li>すくすく赤ちゃん訪問事業</li> <li>養育支援訪問</li> <li>個人情報情報の活用と保護</li> <li>子ども食堂ネットワーク構築支援</li> </ul>	<p>① 近隣の人たち同士が日常的にあいさつをし合う関係づくりが重要。(あいさつの促進方法などの検討)</p> <p>② 地域住民へ相談窓口や見守りの重要性の周知が必要。</p> <p>③ 地域住民のだれもがちょっとした気づきで見守りの担い手になり得ることの周知が必要。</p> <p>④ 高層マンションなどに対して、管理組合等と連携した見守りネットワークの検討が必要。</p> <p>⑤ 本人の人権やプライバシーを配慮しながらもゆるやかに見守ることが重要。</p>

注) 項目 ( ) 表示は、策：第1回策定委員会、地：地区懇談会、区：区民アンケート、専：専門職アンケート、庁：庁内検討

# 地域福祉のテーマ別意見・施策・課題シート

テーマ1 地域のつながりの再構築 ② (交流)		
策定委員会・地区懇談会等での意見	区・社協等の主な施策・事業	今後の課題
<p>① 多世代交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント等の際は高齢、子どもなど分野や、対象年齢などの枠を固定しすぎない(策・地)</li> <li>児童期から異世代交流を重ねてきて(児童センター利用者など)、地域内の大きなマンパワーとして育成されている世代が交流を協力してくれると良い(専)</li> <li>高齢者や子どもにのみ優しいので、広い年齢層(15~60歳など)で楽しめるまちづくりをしてほしい(区)</li> </ul> <p>② 新たな参加者を取り込むきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行ってしまえば楽しいのだが、慣れていないところに一步踏み出すのが難しい。知り合いからの声かけなどがあると参加しやすくなる(策・地)</li> <li>町会と高齢者クラブの参加者が固定化している(地)</li> <li>楽しい、面白いなど自分のメリットになる活動にする(地)</li> <li>仲の良い人たちの集まりに新しい人が入りづらい雰囲気がある(策・地)</li> <li>高齢者男性が参加したくなるような行事(囲碁・将棋・麻雀、競馬等)を開催する(地)</li> </ul> <p>③ 居場所のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人との交流が苦手な閉じこもり気味の高齢者男性を多く見かけるが、なかなか外出されない(専)</li> <li>小学生高学年から中高年(不登校の児童・生徒も含む)が気軽に立ち寄れる場所が少ない(専)</li> <li>長年就労してきた障害者は地域とのつながりが薄い。居場所がほしいと思う方向けの高齢障害者サークルなどがあると良い(専)</li> </ul>	<p>■区の実業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者外出習慣化事業</li> <li>精神障害者の地域生活支援(憩いの場運営事業)</li> <li>子ども若者応援フリースペース等運営委託事業</li> <li>親子サロン・ちびっこルーム</li> <li>子育て応援プログラム事業(子育て交流サロン平塚橋すきっぷひろば、ママのリフレッシュタイム、離乳食・幼児食実習講座、子育て交流サロン大崎にこにこ一む、アレルギー等おしゃべり会・講演会、産前産後ボディケア講座、子育て交流サロン荏原すきっぷひろば)</li> <li>親子ひろば(幼児クラブ)</li> <li>親育ち支援事業(親育ちワークショップ、父親の子育て参加促進事業、中高生赤ちゃんふれあい事業)</li> <li>区民活動情報サイト(しながわすまいるネット)の運用</li> <li>ほっとサロンの整備、運営支援</li> <li>認知症カフェの運営支援</li> <li>高齢者社会参加促進支援事業</li> <li>シルバーセンター等の有効活用</li> </ul> <p>■社会福祉協議会の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほっと・サロン事業</li> </ul>	<p>【参加したいと思うきっかけづくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>情報発信の工夫が必要。(予定の発信だけでなく、不参加者が次回参加したいと思うような結果の発信を工夫する)</li> <li>気軽に参加できる、参加に対して敷居を低く感じさせる工夫が必要。</li> <li>行事の準備や片付けなどほんの少しの手伝いでも「できるときにできることをやればいい」という風に見せることが大切。</li> <li>地域で気軽に集まれる場が必要。</li> </ol>

注) 項目 ( ) 表示は、策：第1回策定委員会、地：地区懇談会、区：区民アンケート、専：専門職アンケート、庁：庁内検討

# 地域福祉のテーマ別意見・施策・課題シート

テーマ1 地域のつながりの再構築 ③ (生活支援)		
策定委員会・地区懇談会等での意見	区・社協等の主な施策・事業	今後の課題
<p>① ボランティア担い手不足への工夫 (意欲のある方の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供の方法や有償化など、やり方を変えれば担い手が増えると思う(策・地)</li> <li>担い手の対象として、中学生の力を取り込む(地)</li> <li>大人数が集まる場でボランティア募集することで、顔見知りややるならやってみようという心理が働き、人員を確保しやすくなると思う(専)</li> <li>ボランティア活動に興味はあるが、資格がないので、そういう人たちに向けてのセミナーなどがあると参加しやすい(区)</li> <li>自身の英語等の語学、技能、資格などを生かしてボランティアに参加したい(区)</li> <li>自分が福祉に貢献できるとは思っていなかったが、簡単なこと、少しの時間でも良いなら力になりたい。ボランティアのハードルを下げる(区)</li> <li>定年退職してボランティアに参加したいが、どう動き始めたらいいかかわからないという人がいる(区)</li> <li>子どもが小さいうちはボランティアとかの協力は難しく、逆に受ける側になってしまうかも。子どもの手が離れたら時間はあり、恩恵を受けたからこそ協力しなければという気になる。社会全体として助け合えるようなサイクルの社会になると良い(区)</li> </ul> <p>② 本人の意思・状況に寄り添った生活支援の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集いの場などへ自力で行けなくなっていく人がいる。本人の希望は尊重しながらも、外出の付き添い支援や、話し相手のボランティアなど、別の支援へスムーズに移行できると良い(地)</li> <li>日常的に寂しがっている人が多い。話を聞くだけで解消されることもある(地)</li> <li>外国人に対してアナウンス、資料等は英語、その他の多言語対応があると良い。鉄道事故等の突発の場合も、多言語対応の配慮があると良い。外国人の高齢者の生活支援サポート体制が整うと良い(区)</li> </ul> <p>③ 企業等との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近所のスーパーが改装中に買い物に困る方が多かった。地域の声により企業が改装までの期間、定期的に移動スーパーを手配してくれて大変助かった(地)</li> <li>注文販売はインターネット注文が主流になっているが、買い物に行けない人はインターネットもできない人が多い。電話1本で届けてくれるサービスがあると良い(地)</li> </ul>	<p>■区の実業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等の外出同行支援事業</li> <li>安心して暮らせる住まいの確保 (グループホーム、サービス付高齢者住宅の整備)</li> <li>日中一時支援事業(にじのひろば)</li> <li>発達障害・思春期サポート事業</li> <li>重症心身障害児(者)通所事業ピッコロ</li> <li>知的障害者等の就労移行の支援強化(障害者就労支援センター)</li> <li>ファミリーサポート事業</li> <li>一時保育</li> <li>子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」「昭和通りおばちゃんち」</li> <li>広報しながら、地域情報集などによる情報提供</li> <li>地域貢献ポイント事業</li> <li>子ども食堂ネットワーク構築支援</li> </ul> <p>■社会福祉協議会の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さわやかサービス</li> <li>たんぼつサービス</li> <li>ファミリーサポート</li> <li>ほっとサービス</li> <li>市民後見人養成</li> <li>すけっと品川養成講座</li> </ul>	<p>① 複数人でボランティア対応するしくみづくりの検討が必要。</p> <p>② 担い手不足解消の工夫を検討。</p> <p>③ 地域住民と地域企業・法人のそれぞれの声を結びつけるしくみづくりの検討が必要。</p> <p>④ 制度の狭間になりがちな方への対応を含め、多様な対象者について検討が必要。</p>

注) 項目 ( ) 表示は、策：第1回策定委員会、地：地区懇談会、区：区民アンケート、専：専門職アンケート、庁：庁内検討

# 地域福祉のテーマ別意見・施策・課題シート

テーマ1 地域のつながりの再構築 ④ (市民学習・理解促進)		
策定委員会・地区懇談会等での意見	区・社協等の主な施策・事業	今後の課題
<p>① 人への理解・関心を深めるための取り組みの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他人への無関心、人と関わり合いたくない住民への理解(一緒に何かやるということを嫌がる、群れたがらない人が多い)(策・地)</li> <li>● 高齢者・障害者の施設と地域との日常的なつながりが大切。温かい目で見守る態勢になると良い(策・地)</li> <li>● 高齢者、障害者など困っている人に対して、本人の出来ることを確認して、必要な手助けをする。健常者が過剰に特別視しすぎない(策)</li> <li>● 障害者の住む家庭と地域のつながりが大切(地)</li> <li>● 外国人が増えているので、お互いの文化を共有するイベントを増やしてほしい(区)</li> <li>● 外見だけでは判断できない心の病を持つ人に対しては、下手に踏み込めない部分も多いため、助け合いたいと思っても現実にはなかなか難しい。ひきこもっている人等にはアプローチできないし、家族も隠してしまう。理解しあえるよう、お互い知識を持つことも必要だと思う(区)</li> </ul> <p>② 制度等への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童にボランティア学習を体験させられる場・連携先があると良い(地)</li> <li>● 成年後見制度利用への偏った(悪用などの事案)知識が広まっており、正しい制度内容を周知していくことが必要(地)</li> <li>● 成年後見制度や住み替えなどは早めの準備が大切。元気なうちに自分の将来を見据えたライフプランの周知・理解促進が大切(地)</li> <li>● 町会について固定観念を持つ人が多く、良いイメージに転換することが困難(策)</li> <li>● 自転車のルール・マナーの不徹底など、歩行が困難な方や視力聴覚障害の方にとつて大変危険な場所が多い。高齢者、子ども、障害者には歩くだけで危険が伴うことへの理解促進することが大切(専)</li> <li>● 昨今、福祉の仕事希望する方が減少しており、区内のお祭り等で福祉の魅力ややりがいのアピール活動を実施できれば良いと思う(専)</li> </ul>	<p>■ 区の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 精神保健の区民及び支援者向け講演会</li> <li>● ユニバーサルデザインの普及啓発</li> <li>● 認知症サポーター養成事業</li> <li>● 障害者理解促進・普及啓発事業(障害者週間記念のつどい)</li> <li>● 障害者の芸術活動支援事業(アールブリュット展)</li> <li>● 障害者作品展</li> <li>● 親育ち支援事業(親育ちワークショップ、父親の子育て参加促進事業、中高生赤ちゃんふれあい事業)</li> <li>● 差別解消法ハンドブックの配布、窓口カウンター整備等の実施</li> <li>● L G B T等性的マイノリティへの偏見・差別防止に向けた理解・啓発の促進(職員研修、啓発講座と映画会の実施、広報記事による啓発、パンフレット配布等)</li> <li>● おたがいさま運動の普及啓発</li> </ul>	<p>① 高齢者、障害者、外国人等への理解、偏見をなくす取組みが必要。</p> <p>② ボランティア体験の場や情報の提供を行う。</p> <p>③ 人の支援が必要になる前の段階で自分の将来を見据えたライフプランについて考えるきっかけとなる場や情報を提供する。</p>

注) 項目 ( ) 表示は、策：第1回策定委員会、地：地区懇談会、区：区民アンケート、専：専門職アンケート、庁：庁内検討

# 地域福祉のテーマ別意見・施策・課題シート

テーマ2 多機関・多職種連携		
策定委員会・地区懇談会等での意見	区・社協等の主な施策・事業	今後の課題
<p>① 相談体制・社会資源の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域で困ったこと、気になる方がいるときに、どこに相談すれば良いかわからない(策・地)</li> <li>不登校、ひきこもりなどの問題をかかえた家族が相談できるワークショップや相談の場が必要(専)</li> </ul> <p>② 支援が届いていない人への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤立している人がいないように、個人、家庭に外部の誰かがつながっている状態になると良い。キーパーソンを見つけることが重要(策・地)</li> <li>子ども食堂や児童センターなど、本来の対象者が実際は来ていない(地)</li> <li>住民票上は対象外だが、実質は見守りが必要な方への支援(専)</li> </ul> <p>③ 包括的なサポート体制の整備 (情報共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域などに関わりを持ってない人への支援について、行政や専門職だけではカバーしきれていない(策・地)</li> <li>近隣の団体などの活動を詳しく知らない(策・地)</li> <li>高齢者支援の体制に、子どもや障害者分野のネットワークも入り、多職種連携ができると良い(策)</li> <li>障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行期の対応・サービスを整理し、関係機関の共有が必要(専)</li> </ul> <p>④ 多問題家族・世帯への対応の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多問題家族(老障世帯、生活困窮等)に対する各支援者の連携が必要。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ケースの日常的な情報交換だけでなく、制度を越えた定期的な情報共有の機会があると良い(専)</li> <li>各支援者を該当部署で対応するだけでなく、家族全体の相談に乗り総合的に対応できる場があると良い(専)</li> </ul> </li> <li>明らかに支援が必要な本人・家族が周囲の関与を拒否した際に、専門機関やボランティア団体の連携・家族全体を見守る体制づくりが必要(専)</li> </ul> <p>⑤ 介護と医療の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>独居高齢者等の見守りの輪(近隣住民や町会・自治会、マンション管理会社など地域で本人の生活を見守る体制)に医療関係者に加わってもらい、生活・健康面を安定させられると良い(専)</li> <li>自宅で看取りをする場合家族の不安も多いが、医療職と介護職の連携があると安心して介護に臨める(専)</li> <li>病院に受診したことがない高齢者が、急遽、医療が必要になった時にスムーズにつながるように医療連携体制ができていると良い(専)</li> </ul>	<p>■ 区の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支え愛・ほっとステーションの設置</li> <li>民生・児童委員が活動しやすい環境づくり</li> <li>しながわネウボラネットワークの充実</li> <li>支え愛活動会議(旧称:ふれあいサポート活動会議)の充実</li> <li>精神専門医相談(保健センター)の実施</li> <li>在宅介護支援システムの充実</li> <li>生活支援体制整備事業(協議体の設置・生活支援コーディネーターの配置)の実施</li> <li>知的・身体障害者相談体制の強化</li> <li>精神障害者の地域生活支援(地域生活安定化支援事業、地域生活サポート24事業)</li> <li>療育支援体制の整備、強化(療育支援ネットワークの開催)</li> <li>品川要保護児童対策地域協議会(品川子ども家庭あんしんねっと協議会)の開催</li> </ul>	<p>① 多様な相談対応・社会資源の整備により、気軽に利用・外出できる環境にする。(例:出張相談会、24時間対応窓口の検討)</p> <p>② 支援やサービスを知らない人や取得しづらい人に必要な情報を届けられるようにする。</p> <p>③ 縦割りのサポート体制だけではなく、状況に応じて効果的に分野横断的な連携ができるようにする。(同じ圏域内の組織間の情報共有の推進)</p> <p>④ 多問題家族・世帯の対応について、専門機関やボランティア団体の連携により、家族全体を見守る体制づくりを検討する。</p> <p>⑤ 介護職と医療関係者が互いに連携できるよう、情報共有やスキルアップのための学習の場作りを充実させる。</p>

注) 項目 ( ) 表示は、策：第1回策定委員会、地：地区懇談会、区：区民アンケート、専：専門職アンケート、庁：庁内検討